

つなプロ マンスリー活動レポート (2011年12月分)

2012年1月18日



被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト(つなプロ)

つなプロ全国事務局:スペシャルサポートネット関西

「被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト」(つなプロ)とは

ミッション

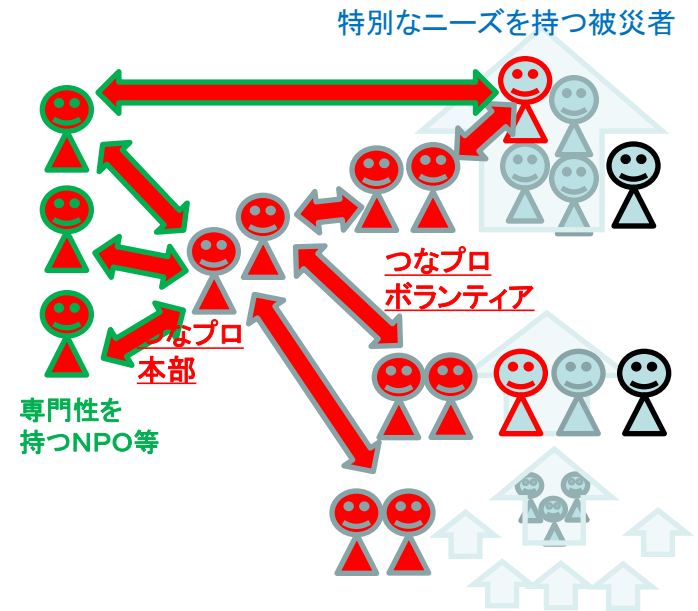
避難先でのこれ以上の死者、状況悪化者を出さない

活動定義

そのために避難所等での課題・困りごとを「発見」し、専門NPO・限定物資・疎開先などと「つなげる」こと

具体的な実施内容

- ① 被災者の現状把握・評価(アセスメント)
- ② ピンポイント支援
特別なニーズを持つ被災者のニーズを専門性を持つNPOにつなぐ
(例. 妊産婦、要介護者、外国人(言語)、
障害者、アレルギー、難病患者等)
- ③ その他、被災地への継続的支援



■「被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト」(つなプロ)とは

仙台・東京・関西を中心とした全国各地のNPOネットワークとして3月14日に発足した「被災者をNPOとつないで支える合同プロジェクト」(つなプロ)は、

- ・ 避難所の巡回訪問(3月29日～5月1日:のべ443箇所)、
- ・ 避難所を拠点とした周辺地域の実態把握(5月19日～7月中旬) 等を実施してきました。

巡回訪問や、避難所周辺のニーズ調査・聞き取り(アセスメント)によって判明したニーズや課題を、地域内での支援の取り組みや、介護、医療、障害者・外国人・難病患者支援など専門性を持つNPOとマッチングすることで解決を進めています。

7月中旬からは、これまでつなプロが実施してきた調査や、マッチング先の情報・ノウハウ等を地元の団体に伝え、つなプロの機能の地元の団体への移管を進めています。同時に、仮設住宅団地でのコミュニティ形成支援等、地元の住民の方々を中心とした活動の支援も実施しています。

■つなプロの基本3原則

- 1)被災地・被災者が主役の復興を支え続けよう
- 2)避難先の暮らしを、少しでも心地よくできるよう、支えよう
- 3)緊急対応だけでなく、しくみづくりを心がけよう

つなプロ これまでの実施過程

フェーズⅠ（宮城県内避難所のニーズアセスメント）

・3月17日(木)～5月1日(日):

関東・関西から毎週ボランティアを派遣、避難所の巡回訪問とニーズ調査。支援団体・機関と随時マッチング



フェーズⅡ（拠点避難所の運営補助と、避難所周辺のニーズ把握）

・5月19日(木)～7月6日(水):

長期インターンとボランティアによる、10程度の避難所での継続的な支援と、周辺地域のアセスメント
(石巻市、雄勝・牡鹿地方、南三陸町、登米市、気仙沼大島)



フェーズⅢ（「つなプロ」の各市町展開、地元団体の立ち上げ）

・7月中旬～

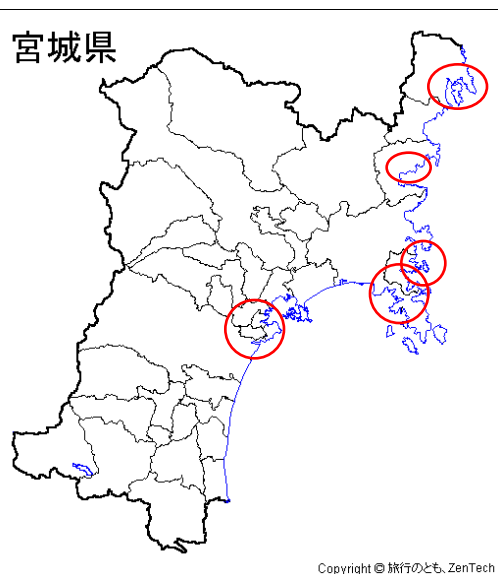
「つなプロ」機能の地元への移行、
仮設住宅周辺環境調査
支援団体間の連携の場づくり等
ニーズ情報に基づくプロジェクト開発



つなプロは、つなプロ機能の地元団体への移管を進め、主に宮城県内の気仙沼、南三陸、石巻(市街地)、石巻(雄勝地域)、多賀城市にて、「市町つなプロ」として活動しています。

これまで、「つなプロ」全体として進めてきた「アセスメント」、「マッチング」、「コミュニティ支援」という柱を、現在はそれぞれの地域ごとに実施しています。地域ごとの活動の様子をご紹介します。

<市町つなプロ 各団体の概要>



■気仙沼 市町つなプロ団体名:「つなプロ気仙沼」

(主な活動内容)

- ・全戸調査、要支援者・孤立世帯の発見 (主に大島)
- ・病院等への送迎、医療機関へのつなぎ
- ・地域おこし支援

■南三陸町 「つなプロ南三陸」

- ・地域の特色をいかした生きがい仕事の創出

■石巻雄勝地域 「しゃべっちゃプロジェクト」

- ・仮設住宅団地における『おぢゃっこカフェ』の開催

■石巻市 開成地区 「石巻復興支援ネットワーク」

- ・地元のお母さん方と連携した仮設住宅団地でのコミュニティ形成支援

■多賀城市 「復興応援団」

- ・仮設団地住民と自宅避難者に対する見守りネットワークの構築

■気仙沼（つなプロ気仙沼）

・気仙沼大島での全島民アセスメント2巡目、気仙沼(本土)でのヒアリングの実施

つなプロ気仙沼では、5月の気仙沼での活動開始以降、がれき班、物資班、アセスメント班に分かれて活動を展開。地元(主に大島)の被災の状況、住民の方々のニーズの聞き取り、また大島に来島するボランティア受入窓口の事務局を立ち上げてきました。

8、9月には住民の中で要支援の方々がどれだけいるか、孤立している世帯はないか、全島アセスメントによって調査し、要支援者の把握と見守り、医療機関への送迎を続けています。

11・12月には、アンケート方式で2回目の全島アセスメントを実施。島の問題・課題を住民がどう捉えているのか、挙げた課題の中で、事業化できるものがないか、検討を重ねています。

12月からは、気仙沼本土でも、主に自治会長さんを対象としたヒアリングを95ヶ所を実施し、現在の問題点等をお伺いしました。その結果、問題点として多く挙げられたのはコミュニティと自治に関する問題点で、「交通」、「仮設住宅の生活環境」、「医療・介護」などへの対策の必要性があげられました。

今後は、大島地域と気仙沼本土の2拠点をベースに活動しながら、大島地域では訪問看護の事業を本格化させ、島内の情報格差をなくすための情報誌の発行にも取り組んでいきます。気仙沼本土拠点では、仮設住宅団地の自治会長さんと、周辺地域の自治会長さんが話す場づくりなど、コミュニティ支援に向けて一歩ずつ関係の構築に取り組んでまいります。

■南三陸（つなプロ南三陸）

・地域の特色をいかした生きがい仕事の創出

つなプロ南三陸では、養蚕業が盛んであった入谷地区でのシルクキルト、漁業従事者の多かった戸倉地区での海藻おし葉を活用して、地域の特色を活かした製品開発、生きがい仕事の創出に向けて、取組みを進めています。また、これまでお手伝いしてきた入谷Yes工房の「オクトパスくん」の広報・販売のお手伝いも続けています。

12月は、「シルクキルト」製品製作のための拠点整備、地元の方々への協力をお願いにまわったほか、出店先のお願い、ネット販売ルートの開拓を進めました。今後は制作体制の整備に取組み、2月の試験販売、3月からの販売に向けて準備を進めていきます。

また、入谷Yes工房の「オクトパスくん」のクリスマス・年末の販売のお手伝いとして、『被災地復興応援フェスタ』に参加し、首都圏の方々に向けて、オクトパス君の販売、このプロジェクトの意義、町の現状について伝えました。



『被災地復興応援フェスタ』でのブース



「南三陸町の名産である真蛸をモチーフとした復興グッズ、「オクトパス君」のクリスマスグッズ

■石巻 雄勝地方(しゃべっちゃプロジェクト)

・仮設住宅団地9か所における『おちゃっこカフェ』の開催

石巻雄勝地域では、「雄勝地区震災復興まちづくり協議会」内に「しゃべっちゃプロジェクト」を立ち上げ、仮設住宅団地内の集会室等を中心として、近所の方々の情報交換の場として、「お茶っこ」を実施しています。

一日2か所、一週間に雄勝町内仮設集落7か所(水浜、大須、森林公園、立浜、名振、船越、峠崎)および在宅集落2か所(桑浜、荒浜)にて継続的にお茶っこを実施。これまでの約2ヶ月間で仮設集落住民の状況把握ができたため、開催前には独居高齢者に対して重点的に声かけし、全戸(約170戸)を訪問して情報が行き届くように努めています。一週間あたりの平均参加者数は約80人。

最近では震災前から存在していたコミュニティがまた息を吹き返し、各自で声をかけあって集まるようになり、食べ物や飲み物を各住民が手作りのものを持ち寄る動きが増えてきました。今後は住民主導による勉強会や各種イベント、炊き出し等を行っていかうと思っています。

★しゃべっちゃプロジェクトのブログもご参照ください：<http://sbcogatsu.blogspot.com/>



立浜集落のおちゃっこの様子



水浜集落のおちゃっこの様子

■石巻(市街地) (石巻復興支援ネットワーク)

・地元のお母さん方と連携した仮設住宅団地でのコミュニティ形成支援

石巻復興支援ネットワークが実施する「笑顔でつながろうプロジェクト」では、仮設住宅や地域で暮らすお母さんが、楽しく前向きに生活を送れる環境作りに取り組んでいます。

12月は石巻市仮設開成団地、南境第7団地にて、お母さんや住民同士で手芸やフラワーアレンジメントをしながら交流することでコミュニティ形成を支援する「やっぺす隊がやってくる」を実施し、合計20回のイベント、ワークショップを実施、延べ178人の方にご参加いただきました。

また、30人の被災者の方々に生きがい内職仕事の提供をさせていただき、お母さん同士がつながりながら収入を得る機会を作りました。23、25日には仮設開成団地と釜小学校にて親子クリスマスイベントを実施し、あわせて200名の親子に楽しんでいただきました。

★石巻復興支援ネットワークのHPもご参照ください：<http://yappesu.jimdo.com/>



12月23日開催の親子クリスマスイベントの様子



仮設団地集会所における生きがい内職仕事の様子

■多賀城市（復興応援団）

・仮設団地住民と自宅避難者に対する見守りネットワークの構築

多賀城市等、宮城県南部を中心に活動する「復興応援団」では、支援者、自治体、管理団体のネットワークを形成、被災者を取り巻く地元の自営業者などによる“見守り人”と仮設住民の中から選ぶ“お世話人”を選出して被災者のケアを行います。また神戸市の住宅計画に携わった専門家などからの高齢者向け共同居住型集合住宅に関するセミナーなどを実施して、仮設後を見据えた活動も行います。

12月には、市内の仮設住宅（全6団地・合計347戸）の各現場管理担当者に対しヒアリング（自治会の働き・住民の就業状況・高齢世帯の生活状況等）を行いました。その情報・データをもとに、自治会が形成されている3つの仮設住宅においては、自治会主体のイベント（芋煮会、餅つき大会等）のお手伝いや役員会への出席による関係構築を行いました。他の3つの各仮設住宅においてはお茶飲みサロン等（各仮設住宅で月に3～4回）へ参加し住民の方との交流を深めました。自治会のあるところは役員と、ないところはお世話人候補住民との関係構築を深めた一ヶ月でした。

★「復興応援団」のHPもご参照ください→ <http://www.fukkou-ouendan.com/>



（左）国府多賀城駅南地区仮設住宅餅つき大会
（右）多賀城中学校仮設住宅餅つき大会



■つなプロ全国事務局

・「つなプロ報告会」を京都と東京で開催しました

12月8日に京都で、12月13日に東京にて、つなプロの9か月間の活動を振り返り、「つなプロ活動報告会：『つなプロの9か月』～その時、被災地で何が必要とされたか～」を開催しました。

京都では101名にご参加いただき、「実際の現場では何が起こっていたのか」「どのようにニーズが移り変わったのか」について、つなプロ現地スタッフの話を中心にご報告しました。

東京では81名にご参加いただき、「アセスメント調査結果の概要とマッチングの事例」等についてご報告し、マッチング先としてご協力いただいた専門NPOの方々にもご登壇いただいて震災の直後、障がいのある方や発達障害の子どもたち、避難所の高齢者の様子がどうだったのか、お話を伺いました。

・つなプロ会議を毎月開催、市町村つなプロの後方支援を続けています

つなプロ全国事務局では、各市町村つなプロの関係者を集め、各地の活動の共有や連携の場として、活動の進捗報告・課題の共有の会議を毎月開催しています。また、災害復興やまちづくり、コミュニティビジネス支援に実績を持つつなプロ幹事から、各事業への助言も行い、事業推進の支援を行っています。

そのほか、各市町村つなプロへの情報提供、車両支援、マッチングリソースの紹介など、事務局・後方支援も続けています。



(左)つなプロ報告会@京都の様子

(右)つなプロ報告会@東京の様子



1月の活動予定

■「市町つなプロ」の支援と、3県の連携復興に向けた協働取組みの支援

つなプロは、「つなプロ」から派生した事業、「市町つなプロ」として独立した団体の支援を続け、地元主導による復興を応援していきます。

宮城県内においては、引き続き、気仙沼、南三陸町、石巻市中心部、石巻市雄勝地域、多賀城市の5つの地域で、「市町つなプロ」を展開、事業計画のブラッシュアップ、専門家紹介、事務局機能の面で活動を支援していきます。

そのほか、みやぎ連携復興センター、いわて連携復興センター、福島連携復興センターの3県の連携復興センターと協働し、共通のニーズや課題の共有、協働プロジェクトの実施について、協議を続けていきます。

■「つなプロ」の活動のふりかえり・報告書の作成と、今後の災害時の対応に向けた提言のまとめ

「つなプロ」のこれまで取組みの検証を始め、今後の災害時に、特別な配慮の必要な方々がどのような状況に直面し、どんな支援が必要になるのか、平時から何をすべきか等、「つなプロ」で得られた情報や、マッチング先となってくださった専門NPOの活動を整理し、報告書をまとめ、今後の災害時の対応についての提言をまとめていきたいと考えています。